

テレビ局：TBS	番組名：報道特集	放送日：2020年4月11日
出演者：金平茂紀、日下部正樹、膳場貴子、宇内梨沙		
検証テーマ：オープニング、安倍総理の呼びかけと知事の対応 【特集】 史上初！緊急事態宣言の波紋		
<p>報道トピック一覧</p> <ul style="list-style-type: none"> ・緊急事態宣言後の週末 ・オープニング ・安倍総理の呼びかけと知事の対応 ・東京都で新たに197人の感染が確認 ・神戸市で感染者受け入れの病院で新たに13人が感染 ・全世界の新型コロナの死者が10万人超 ・アメリカLAで住民の血液抗体検査 ・ヨーロッパでの感染者増加ペースが鈍化 ・アップルとグーグルがスマホで濃厚接触の可能性を探る新技術を共同開発すると発表 ・令和のサクラ ・神奈川県内の4自治体が駐車場帰省 ・飲食業と営業職の発熱率が高率 ・【特集】 史上初！緊急事態宣言の波紋 ・スポーツ報道 		
<p>放送法第4条の見地からの検討・検証および該当トピックの報道内容要旨</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オープニング：結論→問題あり 番組のオープニングで金平キャスターが「緊急事態宣言以降初の週末、街は本当に閑散としています。政府自治体は休業や自粛によって苦しんでいる人々を助けるためにできる限りのことをするべきです、事は命に関わります。何を一体ケチっているのでしょうか、国庫にあるお金はもともとは私達の税金です。」とコメントしていた。このシーンに当てられた時間は23秒だった。 「国庫にあるお金はもともとは私達の税金です」というのは、健全な財政が運営されている国であればそうだとと言えるのだろうが、日本のような財源の3割以上も公債に依存しているような慢性赤字財政国では「国庫にあるお金はもともとは私達の税金」というのは全く正しくなく、放送法第四条一項三号「報道は事実をまげないですること」に照らして極めて問題のある発言といえる。 ・安倍総理の呼びかけと知事の対応：結論→特に問題なし 膳場キャスターの「ではニュースです、新型コロナウイルスの感染防止に向けて安倍総理は全国を対象にバーやカラオケ、接客を伴う飲食店などの利用を控えるよう呼びかけました。」とのコメント、日下部キャスターの「また、緊急事態宣言が出されている地域では仕事で出勤する人を最低7割減らすように関係省庁に指示しました。」とのコメントを受け、以下に朱記したようなVTRが取り上げられた。 安倍総理「3つの密がより濃厚な形で重なるバー、ナイトクラブやカラオケ、繁華街の接客を伴う飲食店等につ 		

いては緊急事態宣言が出ている地域か否かを問わず、全国すべて都道府県においてその出入りを控えていただくよう。」

ナレ「政府の対策本部で安倍総理は感染リスクが高いとされるこれらの店について緊急事態宣言の対象地域となっていない道府県でも出入りを自粛するよう求めました。また人との接触を最低 7 割、極力 8 割削減することを実現するため、緊急事態宣言の対象地域に対してオフィスでの仕事は原則自宅でできるようにすること、どうしても必要な場合でも出勤者を最低 7 割は減らすことを関係省庁を通じて要請しました。この他、医療物資不足を緩和するため医療用マスクなどの供給を率先して行うと表明しました。一方、西村経済再生担当大臣は緊急事態宣言の対象となっている 7 つの都府県の知事らとテレビ会議を行い施設や店舗に対する休業要請の対象について法令の範囲内であれば知事の判断に委ねられると述べました。今日から休業要請を行っている神奈川県黒岩知事は全国知事会の創意として、国に休業補償を負担することを求めたことを明らかにしました。西村大臣は保証はできないと述べた上で臨時交付金が用意されている困っているところの支援という形ならできるのではないかと話したということです。黒岩知事は休業する施設などへの支援についてできるかどうかを含めて検討すると話しました。埼玉県は 13 日から休業要請することになっていますが、県としては保証金を支払うのではなく中小企業を支援する別の方法を考えたいとしています、一方これまで休業要請を行わないとしていた千葉県の森田知事は一転して来週中に具体的な業種を決めた上で休業要請を行うと発表しました。休業補償については国からの援助が得られないとして支出しないとしています。」

このトピックに当てられた時間は 177 秒で放送法上は特に問題は見られなかった。

・【特集】 史上初！緊急事態宣言の波紋：結論→評価できる点と問題点が混在

膳場キャスターの「特集は全編を通しまして、新型コロナウイルスについてお伝えします。今週史上初の緊急事態宣言が出されました。」とのコメント、金平キャスターの「感染の拡大はいつ頃おさまるのか？医療の現状、そして逃げ場のない人たちやアーティストは今何を思うのでしょうか。総力取材です。」とのコメントを受けて以下に朱記した特集の VTR が取り上げられた。

安倍総理「緊急事態宣言を発出することといたします。」

ナレ「史上初の緊急事態宣言。」

男性「7月から8月にかけて、かなり収束状態に。」

ナレ「今問われていることは」

女性「いくらでも作れますので、布マスクは結構です。」

坂本龍一さん「どういう存在かということ、僕にも突きつけられているのです。僕の音楽がね、誰のためなのかということ。」

ナレ「今週火曜日」

安倍総理「全国性的かつ急速な蔓延による国民生活及び国民経済に甚大な影響を及ぼす恐れがある事態が発生したと判断し、緊急事態宣言を発出いたします。」

日下部「えー4月7日、緊急事態宣言が出された直後のですね、東京は四谷です。今ちょうどですね、勤め帰りの人たちが四谷駅に向かっている所です。そしてこちらの通りですね、こちらの通りはですね、飲食店がずっと並ぶですね、ちょうど今の時間は、非常に人で混み合ってる、通りなんですけれども、今日はほとんど、人影がありません。」

ナレ「休業している店も目立つ。」

日下部「この中華料理屋なんですけれど、国民が1月になって新型コロナウイルスと戦い、終息に向かっていく

ための指針により、当分の間休業と。」

ナレ「四谷で 55 年続く老舗の郷土料理店。客には全員手の消毒を求めている。いつもなら席がほとんど埋まる時間だが、この時は常連客が 6 人だけだった。」

太平屋酒造総本店 高橋佐和子女将「悲しいですけどね、しょうがないですね。本当に。困りました。」

ナレ「70 代の板長を始め、高齢の従業員が多い。感染した時のリスクもあるが、休業するのは大変だと話す。」

高橋女将「まったく、あの、明日が見えない状態ですと、本当に、明日の生活もこちらも困ってしまいますし、従業員の生活も困ってしまいますし、本当に、それが一番今、苦しいことです。」

太平屋酒蔵総本店 高橋 幸夫社長 (72)「やってると応援団の方が来てくれるし、そういう方たちを裏切るわけにはいかないんですけども、でも世の中の流れとしては、『おかしいじゃないか』って。」

ナレ「午後 7 時安倍総理の会見が始まった。店の人もその言葉に耳を傾ける。総理は医療従事者などに感謝を示しつつ、国民に行動を変えるよう訴えた。」

安倍総理「7 割から 8 割削減を目指し、外出自粛をお願いいたします。」

ナレ「会見ではイタリア人記者から、こんな質問が出た。」

イタリア人記者「成功だったら、もちろん国民だけではなくて、世界からも絶賛されると思いますけれども、失敗だったらどういう風に責任が、とりますか？」

安倍総理「例えば最悪の事態になった場合、私は責任をとればいいというものではありません。」

ナレ「高橋さんは感染が拡大する前に、もっと手を打って欲しかったと話す。」

高橋氏「1 月でしたっけ、対策してきたのは。それから 2 ヶ月から 3 ヶ月くらい経って、信用できない。」

日下部「信用できない？」

日下部「こういう時ってやっぱり政府や行政に対する信頼ってすごい大切ですよ？」

高橋「そうですね。安心して『本当だな』と思わないとき。どんどんどんどん出てくるじゃないですかね。」

ナレ「迷っていた高橋さんだったが、結局明日から来月 6 日まで、休業することを決めた。」

ナレ「同じ夜、横浜の古くからの繁華街野毛。500 円近い飲食店が立ち並ぶ。」

日下部「こんなに人がいない野毛を見るのは初めてですね。」

ナレ「このバーも明かりが消えていた。」

日下部「こんばんは一。」

ナレ「田村誠さんは、多くの大会で賞を取っているバーテンダーだ。店内の消毒を徹底し、空気清浄機を 2 台設置するなど、対策を取ってきたが・・・」

日下部「休業決めるにあたっては、やっぱり非常にいろんな葛藤があったわけですよ？」

バリーブリアント 田村誠氏「ありました。やっぱりギリギリまではやろうと思ってました。ただ、なるべくだったらお客様のために閉めたくないと思っていたんですけど、このままやるのがお客さんのためなのかと悩むこともありまして、で自分としては不本位なんですけども、その、今回、営業自粛。ただ閉店ではなく大会は必ずするように頑張りたいと。そのように思っております。」

ナレ「常連客の多くから励ましの声があったと言う。」

田村氏「何よりも、我々お店をやっている側の人間の心が、まず折れないことが大事だと思いますので、もしお店が再開したとしても、もし私がすごい暗いどんよりとした顔で、お店を開けていても、かえって失礼だと思うんです。ですから、その日が来るまで、あの、自分自身も心を元気に保つように頑張る、頑張ろうと思います。」

ナレ「一夜明け町の様子は・・・」

膳場「銀座の中心部に来ております。歩道を歩いている人達が非常に少ない。で街全体が閑散としております。」

そして人だけじゃないですね、交通量も減っております。このように車も、少なくなってますね。こんな銀座は正直見たことがありません。」

ナレ「百貨店やブランドショップも、軒並み休業し、人通りはほとんどなくなっていた。」

ナレ「さらに」

膳場「東京の秋葉原に来ました。すっかり閑散としています。街のシンボリックなこのラジオ会館も、臨時休館ですし、飲食店や家電量販店は開いているんですけども、よく見ると分かるでしょうか、お客さんは、ほぼいらっしゃいません。」

ナレ「アニメやゲームなどの店が集まる電気街。秋葉原。」

女性「もう少し、アニメ系のものでしたとか、好きな方が、いつもですと、結構いらっしゃるんですけども、ほとんど見受けられないので、1割に満たないか一割というくらいの手人だとは思いますが。」

ナレ「電子機器のパーツを扱うお店にきくと」

男性「駄目ですね全然。もう今週から極端に、お客さんは少なくなった。」

膳場「週末の外出自粛を呼びかけてた頃は、来てた？」

男性「街は多少来てましたね。ちょこちょこと人はいたんですけども、でも週明けからは本当に・・・」

ナレ「長年秋葉原に通っているという人は・・・」

男性「ちょっとらしさっていうのがなくなってますよね。外国人観光客がいて、こういうメイドさんとかもたくさんいてみたい、若い奴らが、とにかく、いたと思うんですけども、若い奴らがあんまり見えないよね。」

ナレ「一方行列ができてこの場所は。」

膳場「東京品川にあります、入管。出入国在留管理局に来ています。ビザの延長などを求める人などが、続々とバスから降りてきましたけれども、建物の外、長い行列ができています。非常に混雑しています。これ実は建物内での、三密を避けるように、このようにビルの前で、並ぶような措置を講じているということなんですね。」

ナレ「3月や4月は特に、混むというが、今年は新型コロナウイルスの影響で、旅行者が帰国できなくなり、ビザの延長を求めたため、申請者が増えた。」

ナレ「仕事で日本に来たこちらの女性も、アメリカに帰る予定だったが。」

膳場「今日はビザを延長するために？」

女性「そうそうそう。はい」

膳場「大勢の人が集まる場所ですけども、不安はないですか？」

女性「あんまりない。ちょっとびっくりしたけど、問題ないと思う。」

女性「みんなすぐスペースとか、マスクをつけてるから、問題ないと思う。」

ナレ「こちらの中国人の女性。1月初めに来日した母親の、ビザ延長を申請するという。」

膳場「どちらから来ているんですか？」

中国人女性「お母さんは吉林省なんです。日本は安全だなと思ってたんですけど、今は中国は安全なので、日本はねちょっとひどくなって」

膳場「そうになってしまいましたね」

ナレ「館内では、入場規制や消毒、席の間隔をあけるなどの対策をとっている。加えて申請期間を3ヶ月猶予したが、訪れる人は近年で最も多いという。」

ナレ「経済に大きな影響を与える休業要請。その範囲を巡って、政府と東京都の調整が難航していた。」

ナレ「しかし昨日」

小池都知事「国からは外出自粛の効果を、見極めてからの要請だという話もございました。しかしながら、都と

いたしましては、これはひとえに、都民の命にかかわる問題である。」

ナレ「対象となったのは、密集など、三つの密が起りやすい六つの施設で、ナイトクラブやバー、カラオケボックスやネットカフェ、大学や学習塾。体育館やスポーツクラブ、パチンコ店。映画館や演芸場。博物館や図書館など、6つに区分けされた。」

ナレ「また休業した中小の事業者については、協力金として、1店舗のみの場合は50万円。2店舗以上を所有する場合は、100万円を支給することになった。」

ナレ「一方居酒屋を含む飲食店については、」

小池都知事「朝5時から夜8時までにおける営業を要請いたしまして、酒類お酒ですね、その提供については、夜の7時までとするということを求めてまいります。」

ナレ「日本経済への、影響が広がる中、労働相談も増加している。」

ナレ「先週末、弁護士が行った全国一斉の電話相談では、東京だけでも1日に120件を超えた。内容は雇い止めや、整理解雇、内定取り消しなど様々だが、最も多いのが、賃金の不払いだ。」

男性「まさか自分の仕事とかに、こんなに関わってくるなんて言う、感じですかね。」

ナレ「首都圏に住む24歳の男性。教育関係会社で契約社員として働いていたが、突然会社から仕事がないと言われた。」

男性「もう、予告なしに突然と言うか唐突に。もう3月以降の仕事はないですという、通告を受けました。これからどうやって生活をしていこうかって思いましたね。まずは。」

ナレ「会社側から給料についての説明は一切なかった。休業補償をしてくれないかと申し出たが」

男性「何らかのトラブルが発生した場合は、この契約を無効するというものがあって、休業手当をもらうことはできないというふうに会社からは伝えられました。しばらく休みだからその間は、おのおの各自でなんとかやってくれみたいな感じですよ。」

ナレ「男性は毎日とよように労働相談の窓口で電話をかけているが・・・」

電話「大変申し訳ありませんが、ただいま回線が混み合っております。恐れ入りますが、」

男性「開戦が込み合ってるので、一度お切りします。もう数時間待ってるんですが、2、3時間は本当に、しかも平日なんですよ、平日なのに。」

ナレ「この後、ようやく電話がつながり、休業補償については、交渉の余地があることがわかった。今は貯金を切り崩して暮らしている。」

男性「半年はもたないです。本当に。はい、最悪今年度いっぱい、一年間の仕事がなくなってしまう、ということも、最悪のケースとして、最近はちょっと考えたりもしますね。」

ナレ「都内のビルなどで清掃作業などを行っている40代の女性。」

清掃業の女性「お手洗いの掃除もしますし、ゴミ回収したら、今だったら絶対に、使用済みのマスクやら、使用済みのティッシュやらが山ほどあるんですね。そういうもの毎日取り扱うので、」

ナレ「毎日仕事をする中、勤めている会社の安全への姿勢に、疑問を感じているという。」

清掃業の女性「マスクは着用せよという指示はありましたけれども、支給はなかったです。もう。各自で用意でした。」

ナレ「安倍総理は、総額466億円をかけて、布マスク2枚を、全ての世帯に来週から配布するとしているが、」

清掃業の女性「そういうことしてくれって言うてるんじゃないかと、その一般人レベルでできることは、していただかなくて結構ですので、一般人じゃできないことをやって頂きたいんですね。」

清掃業の女性「全世帯に給付金を配ったら、まあ本当に、いくらぐらいの額が配れるのかは分かりませんが、

何かこう、無理して働かずに済む手立ってというのは、考えられるんじゃないかと思いますけどね。あの仕事休業させてくれたら、その間あのマスクを作る時間はあるので、私、もう用意だけはできてるんで、いくらでも作れますんで、あの布マスクは結構です。」

ナレ「政府は収入が減少した世帯に、30万円の現金を、給付するなどの対策を打ち出しているが、」

日本労働弁護団 梅田和尊 弁護士「それこそ、今までにない、リーマンショックとかですね、そういった所を遥かに超えるような規模で、整理解雇っていうのが行われる可能性はある。」

ナレ「こう話すのは、労働問題に詳しい梅田和尊弁護士。企業側に対して、こう指摘する。」

梅田氏「裁判例上ですね、整理解雇はそんな安易には、認められない。極めて厳格な要件がありますので、お金がないという会社もですね、あるかと思うんですけども、そういった場合には、雇用調整助成金を、きちんと活用をすると、いうところですね、やっぱり、徹底していく必要があるのではないかと思います。そうして整理解雇というものを、安易にしないということがですね非常に重要なところかと。」

"ナレ「今週、人の動きはどう変わったのか、位置情報のビックデータから推計した東京銀座の人の数は緊急事態宣言の前と後でおおよそ4%に当たる6000人減った。新宿歌舞伎町も同じく4%に当たる1万人減った。一方、緊急事態宣言によって行き場がなくなる人達もいる、インターネットカフェで生活する人たちだ。」

小池百合子「ネットカフェについては今、寝泊まりしている人も多く、そこがクラスター化する恐れもあるわけでございます。」

ナレ「小池知事はネットカフェに対しても営業休止を要請した。都内ではネットカフェで寝泊まりして生活する人がおおよそ4000人いると推計されている、東京、小平市にあるネットカフェ、スマイル。一昨日、客は一人だけだった。」

"松田仁孝（ネットカフェ スマイルオーナー）「(客足が)パタッと落ちて、かなりの赤字になっています、もう廃業も考えています一ヶ月で済むならいいですけど、その先も見えないんですよ。」

ナレ「廃業する覚悟で休業要請に従うと話す一方で生活に困る人のセーフティネットがなくなることを懸念する。」

松田仁孝「生活に必要なものを提供している場所である、ネット設備が常時使えるという場所は全くなくなってしまう。」

ナレ「東京新宿区にあるいえとしごと、生活に困っている人に寮付きの仕事や一時的に暮らせる場所を紹介している今週水曜日26歳の男性が相談にい訪れた。」

男性(ネットカフェで生活)「今住んでいるネットカフェからも住める状況じゃなくなってきたというのがあって」

ナレ「男性は1年ほど前から日雇いの仕事をしながらネットカフェでの生活を余儀なくされていた。きっかけは家族問題というのが一番大きいですね、自分が家にお金を入れられなくなっちゃって、追い出されたっていうのが一番ですね。」

ナレ「実家を追い出された男性がたどり着いたのはネットカフェだった。お金もなくスマホが使えない、連絡手段を失い、新型コロナウイルスの問題以降、いくら仕事を探しても見つからなかったという。」

男性(ネットカフェで生活)「一週間10日くらいばったりなくなっちゃったりして、バイトの面接にこぎつけたとしても、その合格不合格の連絡がこっちが受け取れなかったり、住む場所がないっていう時点で落とされたり、」
記者「所持金っていうのは」

男性(ネットカフェで生活)「細かいので1000円、925円ですね。泊まる場所がないってなったらもちろんネットカフェでようやく仕事にありつくためにWi-Fiを使っていたというのがあったので、今後の仕事、日雇いだろうとなんだろうとできなくなるって考えたら行きてく手段がなくなるんですよ、自分の場合。」

"ナレ「追い詰められた男性が初めて支援を求めたのがいえとしごとの市川加奈さんだった。」

市川加奈（いえとしごと代表）「まあ今日、どうするんだという問題もあるし、市役所でこういうところに行ったほうがいいのかさういうのをお伝えして、」

ナレ「東京都は今週補正予算案でこうした人達に一時的な住まいを提供する費用として 12 億円を盛り込んだが。」

市川加奈「早い支援が必要なんですけど、そこが間に合っていないのすごいいタイムラグが有るなって思いました。閉めるのであれば対策を整えてから閉めないで、結局街中にひとがあふれるので、シェルターじゃないですけど、一種さういう社会的な役割になっちゃってる部分があるのでそこは残しておくべきなのではなかろうかと思えますね。」

テロップ「相談から数時間後

ナレ「紹介できるし、今から家に来て面接しようかって言ってくれているんですけども。」

ナレ「男性は市川さんの紹介で人材派遣会社の面接を受けられることになった。そして」

人材派遣会社「今日の流れなんですけれども、よければ、このままあと現地まで私がお連れして。」

ナレ「工場で派遣社員として働くことが決まり、この日から会社が借り上げたアパートに住めることになった。」

人材派遣会社「まずはちょっと済むところからということであとお仕事の方は是非明日にでも。」

男性「あ〜、嬉しい、人間になれた。ネットカフェが最終的な手段として考えていたので、コロナの影響で仕事なくなる、場所なくなるというのはものすごく怖いことだと思いますね。」 "

"ナレ「既に倒産が相次いでいる施設もある、ライブハウスだ。」

金平「ええ緊急事態宣言ってのがでてね、一変しましたよね。」

平野悠（ライブハウス経営者）「ライブハウスは三密の代表格、再前線ですよ」

ナレ「平野悠さん、東京新宿歌舞伎町など 12 店のライブハウスを経営する、ライブハウスでは大阪や東京で相次いで集団感染が発生、はからずも新型コロナウイルスの感染力の強さを日本中に知らせた。集団感染は平野さんが経営する渋谷のロフトヘブンでも先月 20 日に起きてしまった。そのライブには脚本家の宮藤官九郎さんもいたという、その後、工藤さんが感染を発表、どこで感染したかは不明だが平野さんは強く避難された。現在、すべてのライブハウスの営業を休止している。なぜ集団感染が起きてしまったのか。平野さんが初めてテレビカメラの前で語った。」 "

"平野悠「椅子席でももちろん体温計とそれから消毒液をやって、まあそれで換気もしていたから、それで 50 人の世界だから、みんな立って踊るわけではなかったの、ないはずだったんですよ、これでなんとかさうやるにすむせるだろうっていう甘い考え、甘く見ていましたよ、僕はいわゆる三密を甘く見ていましたね、まさかうちからっていうのはあったし。」

金平「やっぱりそのへんは反省している。」

平野悠「反省しています、甘く見ていましたね、これは。」 "

"ナレ「ライブハウスは防音のため密閉空間になる、これに密集、密接が加わり三密になりやすい。先月 20 日は緊張感が緩んでいたと言われる時期だった、それでも後悔の念にかられている。」

金平「自粛すべきだった。」

平野悠「すべきだったと僕は思いますね。あの日強引にその代わり会社も潰すことも恐れるな、それよりも世間に迷惑を掛ける事のほうがやっぱり大変なんだということを俺は社長にね、ロフトの社長に説得しきれなかった。」

ナレ「運営を任されている社長のもとには同業者からの悲痛な声が届いているという。」

ロフト社長「他のライブハウスの人、みんなどうしようみたいな、営業が、営業ができないわけですから家賃も

払えないし、実際にもう潰れていますからね何件もライブハウスが」

ナレ「平野さんが立ち上げたライブハウスは来年創業 50 周年を祝うはずだった、今は全く先が見えない。」

平野悠「ただこの家賃は 300 万円以上でしょ、でもうちは今 100 万以下の空間は殆どない、赤字と後うちの 50 数人の社員と 150 人のアルバイトとあとは契約社員、この人達の生活をどうするんだと考えたら夜も眠れない。文化がね、こう壊滅していってしまうでしょう、このままだったら。」 "

ナレ「今回の緊急経済対策では文化芸術活動への支援も盛り込まれた、だが早い時期から自粛を求められたアーティストへの補償は限定的だ、一方海外の支援は手厚い、ドイツでは既にアーティストや映画館、出版社、新聞社など幅広く文化を対象に大規模な支援が行われている、総額は 500 億ユーロ、およそ 6 兆円も登る。ミュージシャンの坂本龍一さんは支援の大きさに加え、ドイツの文化大臣の言葉に感銘を受けたという。今週、ビデオ通話で話を聞いた。」

"坂本龍一「アーティストっていうのは今、我々の生命維持に必要な不可欠な存在なんだ、と言ってるわけなんです、これやっぱドイツあるいはヨーロッパにおける文化の位置と日本における文化の存在というもののまっ随分違いというのがはっきりでたなくなってきたドイツの、それこそドイツのダンサーだった、ピナ・バウシュ、言っていた有名な言葉で""dance,dance,otherwise we are lost""という言葉があるんです、要するに踊ろう踊ろう、踊れ、そうしなければ僕たちは失われる、私達は失われるよ、つまり踊ることである人間集団は生きていくことが出来る、これは音楽でもアートでも詩でも同じことだ。」

ナレ「坂本さんは自粛が続くアーティストにこう訴える、」

坂本龍一「自分たちの存在価値が決して失われることはない、という確信は持ってほしいし、ただその無制限の凄い膨大な支援を出したような文化のあり方を僕たちはやってきたのか、という尋問も僕は自問もしたいなと僕は思っています。」 "

"ナレ「新型コロナウイルスの感染拡大によって全国的にアルコール消毒液の品薄が続いている、そんな中高知県安芸市にある会社が新商品を開発した。江戸時代から続く酒造メーカー、菊水酒造。酒造りの技術を活かし、作った商品がアルコール 77、一般の消毒液と同等の 77 度のエタノールを含んでいるが消毒液とは分類が異なる。」
春田和城（菊水酒造社長）「あくまで飲用を目的としたお酒ですね、まあ酒税法上の分類でいうとスピリッツになります。」

ナレ「酒造りに使う醸造アルコールは消毒用と同じ成分だ、しかし消毒用の場合それに加える材料などが厳密に定められ、許可を得るのは難しい、そこで。」

春田和城「それよりは酒税が加わったとしても、早い段階で供給するほうが今の状況であればいいだろう、ということ。」

ナレ「これは工場の写真、アルコールは高濃度で揮発性が高いため取材カメラの中には入れない、静電気でも引火する可能性があるからだ。こうした環境下での作業はこの会社でも初めての挑戦だという。」

春田和城「電気を動力としない機会を使用しています。空気圧とか人力の部分もありますし、そういう電氣的なスイッチとかがついていない、モーターとかがついていない機械を利用して充填しています。」 "

"ナレ「アルコール 77 は酒として取り扱われるが消毒用の代替品として注目されている、春田社長にはこの商品に込める特別な思いがあった。」

春田和城「これ 2 年前の水害でコンテナが道路のこっち側にあっただですよ、浮き上がって倒れてしまってますね、これ横倒しになってるんですよ。」

ナレ「この会社は一昨年、西日本豪雨で大きな被害を受けた、」

春田和城「深いところで 1m 位の浸水被害を受けました、もう殆どの機械は入れ替えになりましたね、お客さんにも納品を待っていただいたりいろんな応援を頂きましたので、そういうご恩返しの部分と今のこの状況にお酒のメーカーとして何かしら寄与できるのであればということで商品を開発したということですね。」

"テレオペ「えーとですねかなり今大量にご発注いただいていますので、在庫はありますけれど、10 時出荷という形になりますので」

ナレ「先週アルコール 77 を発表したところ直後に問い合わせが殺到。問屋や小売店の他、個人からも大量の注文が来た。届いたメールは一日数千件。中にはこんなメールも、」

春田和城「注文でもなくて、問い合わせでもなくて、ありがとうございますっていうようなメールも頂いていますね、これはすごく嬉しいですよ、なので従業員もスタッフもちょっとでもこのお客さんに答えようとしてですね、すごく頑張って対応してくれていますので。」

ナレ「菊水酒造では昨日からアルコール 77 の出荷を始めた。その一方でこれまで酒を提供してきた飲食店が休業し、本業では大きなダメージを受けている。」

春田和城「お酒を売ってということよりも早くなんですかね、状況が収束するのに寄与したいという思いがありますね、それでみんながまたお酒を楽しく飲んでいただけるように、一日でも早くなれば、一番嬉しいというか。」

"

"ナレ「新型コロナウイルスの感染拡大は終息の気配を見せていない、懸念されるのが医療崩壊だ。昨日、東京都医師会の尾崎会長は都の対策会議で危機感をあらわにした。」

尾崎治夫（東京都医師会会長）「こうした、もう 3 桁のですね、感染者像が続きますと、もうとても病床をいくつか作っても間に合わない、収容できない状況に今入っています。」

ナレ「緊急事態宣言が出された今週、東京都では感染経路の追えない感染者が激増している。」

尾崎治夫「かなり市中にもう蔓延している状況でございますので、これまでの提供体制を変えていかないといけないということで、我々もですねもうかなり同僚がコロナで倒れる、あるいは入院しているということが多数出てきておりますので。」

ナレ「医療機関への影響は既に出始めている、研修医や看護師、患者の感染が確認された慶応大学病院では、初診の外来を先月 28 日から、救急の受け入れを先月 31 日から停止した。看護師が感染した日赤医療センターも一部の初診と救急を停止。国立がん研究センター中央病院では新規の患者の受け入れを停止している、小児病棟を含め原則面会禁止とする病院も増えてきた。政府は今週、全国の病院の受入状況をネット上で公開した、入院用のベットが 20 以上あるおよそ 8000 の病院の状況を示せるよう、現在、情報を集めている。では、感染爆発が起きるとどうなるのか。感染者が 17 万人を突破したアメリカニューヨー州では医療崩壊の危機に直面している。

"

"CBS テレビが集中病棟取材したところ、医師が見に付けていたのは医療用ではなく、スキー用のゴーグル。防護服もないため。看護師はゴミ袋を使っていた。ニューヨークの別の病院に勤める呼吸外科医は。」

坪川典史（ニューヨーク在住、医師）「医療体制は一言でいうと限界に来ている。人工呼吸器が底をついた病院であったりロビーに ICU を設置する耕耘をしているという病院もあるというふうに聞きました。オペ室をコロナウイルスの患者に使ったりしている施設もある。」

"ナレ「日本での感染爆発を防ぐためには。」

安倍総理「人と人との接触機会を最低 7 割、極力 8 割削減することができれば、この接触とはどのようなことか、賀来満夫特任教授に聞いた。」

賀来満夫（東北医科薬科大学特任教授）「1メートル以内の距離で 15 分過ごす、それを接触というふうに一応定

義しています、ですから接触を減らすということは直接触る機械を減らすということと人と 1メートル以内で 15 分間過ごすということを減らすというように考えていただいていいと思います。」

ナレ「政府は全国民が接触を 8 割減らせば二週間でウィルス感染が抑制されるとみている。」

賀来満夫「まあ 4 月の 8 日 7 日から 2 週間ということになりますと 4 月の 21 日 22 日位に、までは増えていくんだと、それから下がっていく、すると 5 月の連休明けにはかなり下がっているとまあ推定されるわけですね、」

ナレ「更に緊急事態宣言の期間が過ぎても人との接触を急激に増やすことなく少しずつもとの生活に戻していけば。」

賀来満夫「7 月に入って、あるいは 7 月から 8 月にかけて、かなり終息状態に近付くのではないかというように思います。」

ナレ「一方、パンデミック、世界的な大流行の行方はどうなるのか。鍵となるのは今後のアフリカでの観戦だ。北アフリカスーダン共和国で国境なき医師団のチームリーダーとして働く看護師の道津美岐子さんに聞いた。」
"道津美岐子さん(国境なき医師団)「PCR 検査を実施できるのは今のところこのハルツームしかないっていうのもありますし、検査とかは地方では未だに出来ていない状態なので、ハルツームだけで 14 名ということなんですけれども。」

日下部正樹「全体像は見えていないということですね。」

道津美岐子「そうですね、はい。」

ナレ「スーダンでは感染者はまだ少ないが外出禁止令を出して国境も封鎖するなど厳戒態勢を取っている、国の保健相や首都にある総合病院のスタッフを対象とした感染制御のためのトレーニングも国境なき医師団によって始まったばかりだ。医療機器も医療従事者が感染を防ぐための個人装備も殆どない。」

道津美岐子さん「地方はほとんどその本当に爆発的な例えばクラスターとかが起きた時点で適切に対応できるかというところとちょっとそれは大変難しいかなと思います。」

ナレ「水も不足し手洗いもままならない。国境の難民キャンプでは一度感染者が出れば感染拡大は免れないとみられている。さらに、ヨーロッパでの感染爆発の影響で支援物資も人も来ないという。」

道津美岐子さん「今、交代要員も来れないわけですね、外国から。なので、もう今いる人達だけでなんとかやらないといけませんし、まあ通常だと定期的に休みを取らせてちょっとリフレッシュして帰ってきてまた仕事に、ということなんですけれども、彼らのまああのメンタル的なサポートも考えていかないと。」

"ナレ「アフリカでの流行を抑える取り組みは WHO が主導し、ようやく始まった。賀来特任教授は。」

賀来満夫「7,8 月くらいになるとだんだん北半球の感染は流行は落ち着いてくる、しかし南半球で感染の流行がまた再び起こると秋冬にかけて、再び第三波とよんでいいのか、第四波と読んでいいのか分かりませんが、そういう波はやはり日本にあるいは北半球の諸国に起こってくる可能性は否定できないと思います。」

特集を受けてスタジオでは以下に朱記したやりとりが繰り返された。

膳場「新型コロナ治療にあたっています、医療従事者と話すと、医療崩壊を起こしているともいえる現場の話を口々にききます。まあ例えばコロナ患者が入院する病床はすでに限界上限に達しているとか、あの同じマスクを 1 か月使用し続けなければいけないほど、資材が不足している。そんな話も聞きます。あの提供できる医療がね、限られてしまってきてますから、コロナだけでなく他の病気に関してだって、本来でしたら助けられる人の命が、助けられなくなるって、そんな状況がもう目の前まで迫ってきてるわけなんですよ。あの緊急事態宣言を出しても、それを緩める休業要請見送りの話が出てくるのをね、見ていると、政府や自治体はいったいどこを目指しているのか。本質を見誤ってないかと、正直そんな気持ちになります。」

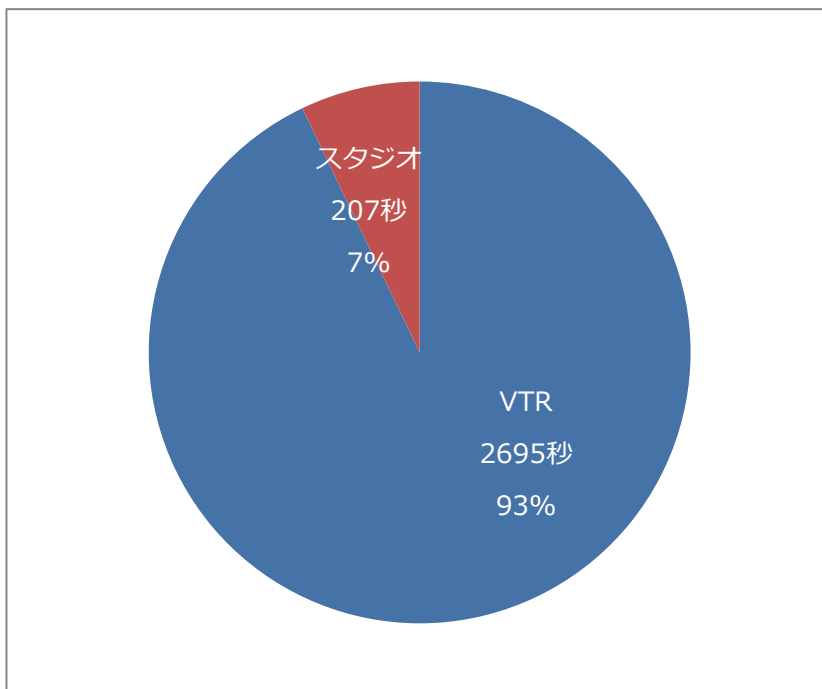
日下部「私が心配なのは、感染者に対する差別や偏見ですよ。まあある地域で最初の感染者。クラスターが起

きた企業とか、組織団体。さらには医療従事者に対するですね、差別的な誹謗中傷がですね、ネットなどに飛び交っているのを見ると、本当に暗澹たる気持ちになります。当たり前のことですが、ウイルスは人を選びません。誰でも感染する可能性があります。こうした差別的なですね、言動は、感染が疑われる人がですね、言い出しにくくなったり、隠したりしてしまっ。かえって感染の広げてしまう恐れがあることを、忘れちゃいけないと思いますね。」

金平「あの一政治にですね、今求められていることっていうのは、ウイルス対策で暮らしがですね、こわされて困っている人々を救うことだと、なにも出し惜しみと言うかね、溺れがかってる人に、浮き輪を数を限って、投げているようなもので、だいたい国庫にあるお金というのは、私たち国民が支払った税金じゃないですか。今使われなくていつ誰のために使うのかっていう思いが、しますね。で、国民や企業に対して、休業とか自粛を要請しておきながら、その企業への休業補償をしないとかね、あるいは試算によると国民のおよそ8割は、一銭も支払われない恐れがあるって言うのは、これは世界的にみても非常に、冷酷非情と言うかね、で、ちょっとあのドイツの、メルケル首相の国民向けメッセージを紹介したいんですけども、経済的および社会的援助プログラム助成金などはすでに、受け付けており、迅速かつ”非官僚的”に、処理されます。どうぞお知りおきください。連邦政府はあなたとともにあります。連帯に基づきすべてのことを行います。なんか、なんという落差かかっていう風に思いますね。」

膳場「はい以上特集でお伝えしてまいりました。」

この特集に当てられた時間は2902秒で、VTRとスタジオのやり取りの時間の比率は以下の通りであった。



VTRでは様々な観点からコロナの問題が取り上げられており、放送法第四条一項第四号「意見が対立している問題については、できるだけ多くの角度から論点を明らかにすること」という点では高く評価できるものであった。しかし、他方で、スタジオでの金平キャスターの「あの一政治にですね、今求められていることっていうのは、ウイルス対策で暮らしがですね、こわされて困っている人々を救うことだと、なにも出し惜しみと言うかね、溺れがかってる人に、浮き輪を数を限って、投げているようなもので、だいたい国庫にあるお金というのは、私たち国民が支払った税金じゃないですか。今使われなくていつ誰のために使うのかっていう思いが、しますね。」という発言については、慢性赤字財政国で公債依存度が直近でも3割を上回っている日本において「国

庫にあるお金というのは、私達国民が支払った税金」と言い切れるものではなく、そうした明らかに誤った発言を無批判に垂れ流している点については同三項「報道は事実をまげないですること」という点に照らして、問題と言える。

最高裁判例の見地からの「印象操作」に関する所見および該当トピックの報道内容要旨
特になし

検証者所感

・【特集】 史上初！緊急事態宣言の波紋

スタジオで金平キャスターが「あの一政治にですね、今求められていることっていうのは、ウイルス対策で暮らしがですね、こわされて困っている人々を救うことだと、なにも出し惜しみと言うかね、溺れがかってる人に、浮き輪を数を限って、投げてみているようなもので、だいたい国庫にあるお金というのは、私たち国民が支払った税金じゃないですか。今使われなくていつ誰のために使うのかっていう思いが、しますね。で、国民や企業に対して、休業とか自粛を要請しておきながら、その企業への休業補償をしないとかね、あるいは試算によると国民のおよそ8割は、一銭も支払われない恐れがあるって言うのは、これは世界的にみても非常に、冷酷非情と言うかね、で、ちょっとあのドイツの、メルケル首相の国民向けメッセージを紹介したいんですけども、経済的および社会的援助プログラム助成金などはすでに、受け付けており、迅速かつ”非官僚的”に、処理されます。どうぞお知りおきください。連邦政府はあなたとともにあります。連帯に基づきすべてのことを行います。なんか、なんという落差かっていう風に思いますね。」と述べていた。確かに浮き輪の数を限って投げてみているようなものなのかもしれないが、そもそも投げられる浮き輪を政府はそこまでもっていない、ということなのではないだろうか。

ドイツとの落差を嘆いていたが、ドイツは平時に於いては財政規律を堅持している国であり、そういう国だからこそ、有事に於いて大胆な政策が打てるのであって、ドイツのような財政の優等生と日本のような万年赤字財政の落第生を比べること自体がそもそもおこがましいだろう。

そういう意味では坂本龍一さんの「自分たちの存在価値が決して失われることはない、という確信は持ってほしいし、ただその無制限の凄い膨大な支援を出したような文化のあり方を僕たちはやってきたのか、という尋問も僕は自問もしたいなと僕は思っています。」という言葉は財政についても同じようなことが言えて、こうした有事の際に大胆な政策を実行できるだけの財政のあり方をこれまで主権者である国民はやってきたのか、ということも自問するべきであろう。